



診察室 ざくばらん

症状は一時的 何度も検査を

続・雷鳴頭痛

1回だけならまだしも、何度も繰り返している。なら、徹底的な追及が必要だろう。もつ、そんなものだ、なんて言っておれない。そつだ。「桜を見る会」のことではない。雷鳴頭痛のことである。

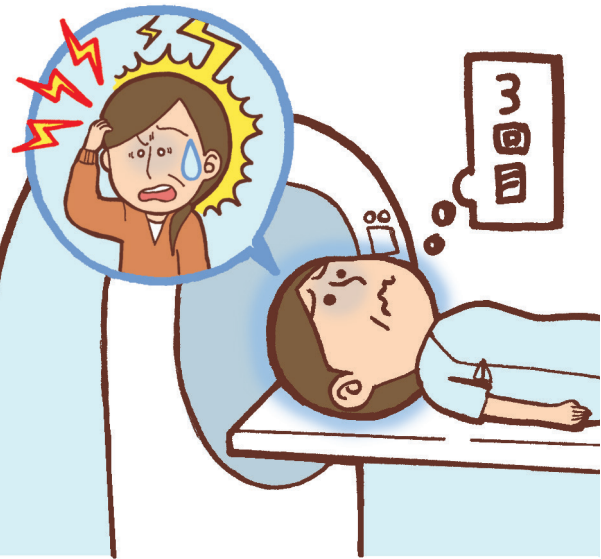
47歳のY子さん。トイレで、いきなり頭に雷が落ちたかと思うような頭痛に襲われた。でも、翌日の頭の精密検査では、異常がなかった。というのに、こゝ1週間の間に3回も同じような頭痛が起きたのだ。「怖くて、トイレにも行けないワ」と嘆く。とすると、Y子さんの繰り返して起きた頭痛は、最近注目の「可逆性脳血管攣縮症候群(RCVS)」という病気かもしれない。

RCVSは、トイレで息んだり、入浴やシャワー、アスレチックジムでの激しい運動、性行為、咳き込んだ後などにひどい頭痛(雷鳴頭痛)を繰り返すものである。頭痛がしても、最初の頃の精密検査で異常は見付からない。だが、発症から日数が経ち、頭痛も起きにくくなって、脳の血管に変化が現れる。血管の一部が、細くなったたり太くなったたりと数珠状に見えるようになる。その血管が縮むことを「血管攣縮」という。

その血管攣縮も、MRA(磁気共鳴血管画像)などで確認できるのは、発症から3カ月までである。ひどい頭痛も、1カ月を過ぎると起きなくなる。その一時的に表れる血管攣縮や頭痛が起きるメカニズムは、よく分かっていない。

血管攣縮は、一時的で元に戻る。検査のタイミングを失すれば、異常は見付からない。で、ただの片頭痛と誤診されていたりする。が、カミナリ様を、なめたらアカン。下手をすれば、脳梗塞や出血を起こすことがある。頭に雷が落ちたようなひどい頭痛の患者さんを診たら、何度でも頭の精密検査を繰り返すべきだ。そんなしつこさこそ、ボンクラ医者には欠かせない。

(石黒修三 いしぐろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住、
射水市出身)



イラスト・野畑桃花